1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070701760
法人名	社会福祉法人　倫尚会
事業所名	グループホーム 倫尚園
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区馬場山東三丁目11番1号 (電　話) 093－619－0230

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6　北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年11月29日	評価確定日	平成21年1月6日

【情報提供票より】(平成２０年１１月１日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	14　人	常勤　13人，非常勤　1人，常勤換算　6.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨及び鉄筋コンクリート造り
	4階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	34,000円		その他の経費 (月額)	(光熱費)10,000円
敷　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000円)		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300　円	昼食	450　円
	夕食	450　円	おやつ	円
	または1日当たり　1,200円			

(4) 利用者の概要 (11月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	2	名	要介護2	6	名
要介護3	7	名	要介護4	2	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	88.4 歳	最低	71 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐々木病院／住田病院／かじわら歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム倫尚園は、高齢者複合施設「ウェル馬場山」に位置し、1階がグループホーム、2階が特別養護老人ホーム、3･4階が養護老人ホームとなっており、広い敷地の中、建物全体がゆったりと造られ、庭園には木立の遊歩道もあり、車椅子でも気軽に散歩ができる優れた環境を有している。地域に開かれたコミュニティホール (地域交流ゾーン) は、地域の方々とのふれあいの機会を育んでいる。2階の特別養護老人ホームには、医師が常勤し、日々の健康管理や緊急時など、安心な医療が提供され、家族にとっては大きな安心となっている。グループホーム倫尚園は、医療との綿密な連携に支えられ、入居者へ質の高い豊かな暮らしを実現している。管理者・職員は一人ひとりを尊重した「暮らしの場」としてのケアやサービス提供に努め、潤いと豊かさとプライバシーに配慮した生活環境を提供している。今後は更に地域密着型サービスとしての地域連携の充実や地域におけるグループホームとのネットワークにより、更なるケアやサービスの質の向上を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目：外部4)** 前回の評価では、①地域密着型サービスとしての理念、②運営推進会議を活かした取り組み、③職員の異動などによる影響への配慮、④本人と共に過ごし支えあう関係づくりについて、今後の取り組みを期待したい内容として挙げられている。どの項目についても改善に向け取り組みを行っている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)** 自己評価を管理者・職員と共に協力して実施することにより、ケアのあり方や初心にかえるための機会としてとらえている。評価の意義を理解し、改善事項について随時職員間で話し合い取り組んでいる。また、外部評価の結果は家族に送付し、ホームの現状や取り組みを理解していただけるように努めている。
重点項目②	**運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4，5，6)** 外部評価は、運営推進会議の議題として取り上げるなど運営面での透明性の確保に努めている。また、外部評価の結果は入居者の家族に送付し、ホームの現状や取り組みを理解していただけるように取り組んでいる。運営推進会議では、グループホームの意義やケア改善について話し合いを行うなど、改善に向けて取り組んでいる。また、運営推進会議で老人会などの要望による講演活動にも応じられるように取り組んでいる。運営推進会議は、地域との連携の場として活かし、情報交換・交流の機会にもなっている。運営推進会議をサービスの質の向上に活かす取り組みを積極的に行っている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7，8)** 家族の面会の際には、入居者の近況報告をしている。金銭管理についても、お小遣い帳により出納状況も確認していただくようにしている。急を要する場合などは、必要に応じて電話連絡を行っている。運営推進会議には、家族の出席もあり、意見や意向を言っていただける場としても活かしている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)** 老人会などの要望に応じて、法人内の他事業所と協力し、講演活動のための認知症のプログラムを作成し、認知症の理解を育むために活動している。講演活動は、地域からの依頼に応えられるように今後も計画を立てている。また、地域の行事に参加して地域の方々との情報交換・交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

（ □ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関の見えるところに理念を掲示している。職員と入居者のなじみの関係づくりや居場所づくり・自己決定の実現・自立支援・存在不安の緩和・「その人らしい暮らし」の継続をケアやサービス提供の柱として取り組んでいる。		
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員全員の目の届くところに理念を掲示し、常に理念を意識して日々のケアやサービス提供が結びつくように取り組んでいる。理念の共有化にあたっては、勉強会・研修などで振り返るように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会などの要望に応じて、法人内の他事業所と協力し、講演活動のための認知症のプログラムを作成し、認知症の理解を育むために活動している。講演活動は、地域からの依頼に応えられるように計画を立てている。地域の行事に参加して地域の方々との情報交換・交流に努めている。		
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を管理者・職員と共に協力して実施することにより、ケアのあり方や初心にかえるための機会としてとらえている。評価の意義を理解し、改善事項について随時職員間で話し合い取り組んでいる。また、外部評価の結果は家族に送付し、ホームの現状や取り組みを理解していただけるように努めている。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2ヶ月に1回開催し、地域や家族の方々の参加のもと意見交換を行っている。その内容については、丁寧に記録された議事録があり確認できる。会議のテーマについても活発な議論が行われている。運営推進会議を地域との連携や家族の意見や意向を言っていただける場として積極的に活かしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	**○市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北九州市が派遣する介護相談員を受け入れ、認知症介護実践リーダー研修・地域密着型サービス事業開設者研修での実習の受け入れなど積極的に市との連携を図っている。		
7	10	**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現在、該当する入居者はいないが、法人内や外部での研修にできるだけ参加し、制度利用の事例を通じて制度を理解できるように努めている。		
8	14	**○家族等への報告** 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会を利用して入居者の生活状況を報告し、金銭管理についてもお小遣い帳により出納状況も確認していただくようにしている。急を要する場合などは、必要に応じて電話連絡を行っている。定期的に入居者の状況を報告するホーム便りや金銭出納帳のコピーなど、家族が身内に報告できるツールが求められている。		
9	15	**○運営に関する家族等意見の反映** 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に関するフローチャートを玄関に設置している。また、介護相談員の訪問日をポスターにてお知らせしている。面会時には、積極的にコミュニケーションを図り、家族の意向や意見をうかがえるようにしている。運営推進会議でも家族の参加があり、意見や意向を言っていただけるように努めている。アンケートでは居室の掃除に関する家族の要望が高く、検討が望まれる。		
10	18	**○職員の異動等による影響への配慮** 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動に関しては、法人が決定しているため、入居者のダメージを防ぐ点では難しい状況がある。なじみの職員とペアを組んで慣れるまでは一緒に行動し、入居者が混乱しないようにベテラン職員がサポートするなど配慮している。		
5．人材の育成と支援					
11	19	**○人権の尊重** 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員につても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	募集・採用においては、法人の事務局が全て行っている。勤務については職員の意向を取り入れながら働きやすい環境づくりを行い、職員面談により、職員がストレスがためないように対応している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	法人内研修で人権について取り上げ、学ぶ機会をつくっている。現場でも事例を通じて声かけや関わり方について、「人権とは何か」を話し合い、人権に対する意識を高めている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で様々な研修を実施し、また、職員の段階におうじて外部の研修も受講できるよう支援している。外部のグループホームとの合同勉強会や自己学習の機会も積極的に参加できるように取り組んでいる。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	約25のグループホームとの合同勉強会を企画し、ネットワークづくりや意見交換・情報交換・訪問を行うなど、ケアやサービスの質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	なじみの関係づくりに配慮し、日中・夜間・宿泊と3タイプの体験入居を実施し、家族の協力を得ながら環境変化へのダメージを最小限にするように努めている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「一人の生活者」として入居者をとらえ、共に生活することの意味を職員と考え支援している。暮らしのパートナーとして共に生活する方針であり、制服の着用など、普通の暮らしの実現に向けて何らかの工夫を期待したい。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際には、本人・家族の意向を確認し、「生活歴チャート」など活用して「その人らしさ」を追求している。認知症の人の代弁者として客観的視点を大切に職員本位の一方的なケアやサービス提供にならないように注意している。家族アンケートより、職員の認知症の理解不足などによる発言や対応に問題があるケースがあると指摘されている。今後の改善を期待したい。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントにおいて入居者・家族はもとより身近な職員の視点も大切にしながら情報収集を行い、医療ニーズの高い方には医療関係者の意見を聞き、介護計画書を作成している。個別の介護手順書を詳細に作成し、統一したケアが実施できるように取り組んでいる。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	2ヶ月に1回モニタリングが実施されている。些細な状態変化に対してケア内容は変更しているが、介護計画にはタイムリーに反映されていないのが現実であるとのこと。効果的な「介護計画の見直し」「実施できる仕組み」を構築していくことを期待したい。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	社会福祉法人倫尚会として、同じ建物の2階に特別養護老人ホーム、3階に養護老人ホームがあり、医師の常勤や看護職員はもとより、専門職のマンパワーがあり、緊急時を含め安心・安全のケア体制が整っている。また、法人全体で行う合同企画もあり、入居者にとっては、楽しみごとが多く活気ある暮らしを実現している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には必ず本人と家族の希望を大切にかかりつけ医の確認をするようにしている。必要時には家族と相談をしてかかりつけ医の変更にも同意を得ている。かかりつけ医とは「個別受診経過記録」などを参考に情報交換を行い、適切なアドバイスや支援が受けられるように努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における医療との連携は、現在、体制づくりを行っている段階である。重度化が予想される今後についてグループホームでの生活継続には努めているが、終末期の方針に関しては対応を検討している。今後の看取りの方針作成を期待したい。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや人権を損ねるような職員の目線や声かけ・対応をしないように心がけている。個人情報の取り扱いにおいても実習生にも小さなことへの配慮を忘れないようにと徹底して話している。また、誓約書を取り交わし、その保護に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールは特に定めず、その日の入居者の意向や職員との話し合いでスケジュールを決めている。「買い物に行きたい」「外に出たい」「夜風呂に入りたい」など希望にそって支援している。職員は6パターンと多様なローテーションを組み、入居者のニーズに柔軟に対応できるように努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立については、栄養士が作成したものが基本となっているが、入居者の希望により、できるだけ役割の提供に努め、成功や達成の喜びを感じていただけるように支援している。押しつけにならないように声かけや動機づけにも工夫し、入居者の能力を引き出すように努めている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴の時間は決まっておらず、希望する時間に入浴できるようにしているが、自発的に入浴を希望される方がほとんどいないため、午後の入浴が多くなっている。入居者同士が一緒に楽しんで入浴されたこともある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お墓参り・面会・外出・カラオケスナック・炊事への参加・床漬け作り・編み物・書道など、入居者の希望を聞きながら楽しみのある暮らしの実現に努めている。活動プログラムを多様に準備しており、個別もしくは、小グループでの活動の実績と実践と重度化の予防に努めている。調査訪問時は、孫へクリスマスプレゼントとして特技を活かし作品を作られていた。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物・ドライブ・外食などを取り入れ、屋内ばかりの生活で入居者がストレスをためないように努めている。また、地域の中で暮らし続けることを大切に考え、地域との交流・ふれあいの機会に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアについて理解しており、居室やフロアの出入口は鍵をかけていない。庭へ通じるドアも日中鍵がかかっていることはなく、自由に出入りができるように開放している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	複合施設全体で消防署立ち合いの訓練を定期的に実施している。今年の8月には夜間を想定した避難訓練も実施している。地域にも訓練参加の働きかけを行い、協力を得て訓練を実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分摂取量は一人ひとりの状態に応じて支援を行っている。個々に応じた食べやすい形態での食事の提供や代替品の準備などにより摂取量を確保し、水分量も記録している。好みの物を提供して自分の意思で飲食できるようにしている。月初めには体重測定を実施し、必要な摂取量の確保に努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間には「暮らし」が感じられるものとなるように配慮している。テレビや職員の声・足音などにも日常的に配慮し、居心地よく過ごせるように支援している。ホールからは台所が見渡せ、食事準備の音や香りを通じて生活感を実感できる。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みに関しての制限はなく、できるだけなじみの家具や装飾品を持ち込んでいただき、これまでの暮らしの継続ができるように住まいとしての環境づくりを支援している。		